

<NOMA×JRI 経営コンサルティング紹介セミナー 第2弾>

新規事業開発と「未来洞察」を考える

【開催概要】

- ◆日時：平成30年9月5日(水) 13:30~17:00 (13:10 受付開始)
- ◆参加料：一般：3,000円(お一人あたり) / NOMA会員：無料 ※お申込は1社2名様まで
- ◆会場：大阪科学技術センタービル 専用教室 (住所：大阪市西区鞠本町1-8-4)
- ◆講師：加藤 彰(かとう あきら)氏、八幡 晃久(やはた あきひさ)氏
(株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門)
- ◆対象：民間企業の経営企画・新規事業・人事等の担当役員・責任者・ご担当者の方々
- ◆定員：限定30名(先着順)

主催： 一般社団法人 日本経営協会

【開催にあたって】

これまでの成長を担ってきた事業の柱では今後のさらなる成長が見込めない中、多くの組織で「新規事業開発」の必要性が叫ばれており、実際に様々な取り組みが行われています。しかし取り組みが成功している組織は、圧倒的に少数派ではないでしょうか。多くの組織に共通する悩みとして「そもそも何から手を付ければよいかわからない」「手を付け始めてもいいアイデアが出てこない」「アイデアが出て実際の新規事業に結実しない」といった声をよくお聞きします。

そこで今回のセミナーでは、**新規事業開発を進めるにあたっての全体像とステップ、およびステップごとに立ち上がる壁やハードルの乗り越え方**を説明させていただきます。そのうえで、特に「**未来洞察**」という手法のプロセスと得られる期待効果について、具体的な事例を交えながら、詳しく解説いたします。数々の組織における新規事業開発を支援してきた経営コンサルタントから、外部の専門家を活用するメリットもお伝えさせていただきます。

なお、セミナー中に、参加者同士で自由にディスカッションしていただく時間も設けております。各社の新規事業開発に関する取り組み事例やお悩みなどを共有いただくと同時に、今回ご紹介する手法が自社で「使えそう」かどうか、本音で議論していただければ幸いです。経営の未来を真剣に考えたい皆様のご参加をお待ちしております。

(注) 本企画は、企業の経営企画・新規事業・人事部門の役員、および責任者様・ご担当者様向けのセミナーです。また、同業他社からのご参加はご遠慮いただいておりますので、あらかじめご了承をお願い申し上げます。

【このような方におすすめ】

- 新規事業開発を進める立場にあるが、何か手を付ければよいかかわからない、また手を付けてはいるが思うような成果が出ないとお悩みの方
- 他社における新規事業開発の成功事例・失敗事例等から、自社での取り組みを成功させるヒントを得たい方
- (特に未来洞察手法を用いた) 新規事業開発に関するコンサルティングの導入を検討されている方

【申込方法】：下記の参加申込書に必要事項をご記入の上、ファクシミリ送信にて下記へお申込ください。折り返し参加券をお送りします。
(参加申込は参加券の発送にて確認させていただきます。不着の場合、必ず前日までにお電話でご確認ください)

FAX 06-6441-4319

一般社団法人日本経営協会 関西本部 経営開発G (寺田) 行

<NOMA×JRI 経営コンサルティング紹介セミナー第2弾> 「新規事業開発と『未来洞察』を考える」参加申込書 H30.9.5(水)		
(フリガナ) 会社名	(フリガナ) 参加者氏名	所属・役職
所在地 〒 —		
TEL () —	ご連絡担当者： (ご請求先)	<input type="checkbox"/> 一般 (3,000円、お一人あたり)
FAX () —		<input type="checkbox"/> NOMA 会員 (無料) <small>(どちらかにチェックを入れてください)</small>

※参加申込書にご記入いただいた情報は、以下の目的に使用させていただきます。
①参加券の発送などの事務処理 ②本紹介セミナーのテーマに関連する情報の提供 ③セミナー・イベントなど上記以外の本会事業のご案内
なお、③がご不要の場合は□にチェックしてください。 --- □不要

【セミナーのねらい】

- ・新規事業開発を進めるにあたっての一般的なアプローチのパターン、およびステップを理解する
- ・その中でも特に「未来洞察」の手法の有効性・有用性、および未来洞察の手法を使って新規事業開発に成功した他社事例を知り、自社で導入できるかどうかの可能性を検討する
- ・参加者どうしてディスカッションを行い、他社の課題や悩み、成功事例や失敗事例等から、自社への示唆を得る

【プログラム】

時間	講演内容	講師プロフィール等
13:30	オリエンテーション／アイスブレイク 本日の趣旨や内容等を簡単にご説明した後、参加者同士で自己紹介し、参加動機などを共有し、リラックスしてレクチャーを受けられる状態をつくります。	
13:50	1. 新規事業開発の進め方と、乗り越えるべきハードル 新規事業を開発せよ！と掛け声はかかっても、どういう手順で取り組めばいいかわからず、担当しておられる方が途方に暮れるケースも少なくありません。ここでは、 新規事業開発を進めるにあたっての基本的な観点と取り組むステップ、また新規事業開発が思うように進まない典型的な「病状」と対処の原則 について説明し、新規事業開発の要諦をざっくりと押さえていただきます。	加藤 彰 (かとう あきら) 氏 ㈱日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門 シニアマネジャー／部長 京都大学大学院工学研究科修了。(㈱デンソーにて半導体研究に従事した後、2000年より㈱日本総合研究所にて経営コンサルティングに従事。組織変革推進、新規事業開拓、人材育成を専門とする。 
14:20	2. 「未来洞察」を活用した「新規事業開発」 近年、新規事業開発の中でも「未来洞察」という手法を活用した推進プロセスの導入が広がってきています。定量的なデータや予測可能な要素をもとに「現在の延長線上」に未来を考えるのではなく、「 非連続な変化がもたらしうる未来 」からインスピレーションを得て発想し、 新たな機会領域を見出す 方法です。ここでは、そのような「未来洞察」の利点、および一般的な新規事業開発手法との違いについて、具体的な企業事例も交えながら解説いたします。	八幡 晃久 (やはた あきひさ) 氏 ㈱日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門 シニアマネジャー 大阪大学大学院工学研究科修了。三井住友銀行(出向)等を経て現職。専門は、未来洞察を活用した新規事業機会、新規事業開発に向けた新組織立ち上げ支援、インド・アセアン市場の市場調査・戦略立案、CSR/CSV関連コンサルティング等。著書に『新たな事業機会を見つける「未来洞察」の教科書』(共著、KADOKAWA)。 
14:30	※ディスカッション① 新規事業開発に関する自社の取り組み状況や課題認識を共有した上で、「未来洞察」の導入可能性や期待効果について自由に意見交換を行っていただきます。	加藤氏がファシリテーターを務めます。また、八幡氏が個別の質疑にもお答えいたします。
15:20	3. 数十年後の未来を可視化する「未来年表」 「未来洞察」から生まれるアウトプットの一つに「 未来年表 」があります。起こり得る可能性の高い数年先の未来から、まだ可能性があるかどうかもわからない数十年先の未来まで「シナリオ」として可視化するものです。未来年表を組織で作成・共有することで「 不確実性への対応力を高める 」「 未来を語る際の共通言語をつくる 」といった効果が期待できます。ここでは、未来年表の作成手順、およびその威力について、具体的な事例と共に解説させていただきます。	八幡 晃久 (やはた あきひさ) 氏 ※某社で作成された「未来年表」の事例 
15:50	※ディスカッション② 「未来(=将来変化)との向き合い方」について、例えば、 ・自社は、何年先まで見据えて経営のかじ取りを行っているのか？ ・自社の「将来変化への対応力は何か？」 といった観点で自社の状況や課題認識を共有した上で、「未来年表」の導入可能性や期待効果について自由に意見交換を行っていただきます。	プラットフォームとしての未来年表の作成を通じて、組織全体の「 未来思考の醸成 」と「 共通言語化による協創 」を促します。
16:00	まとめ／アンケートご記入	

※当日の進行状況等に応じて、プログラムは変更させていただく場合がございます。あらかじめご了承ください。